平成 30 年度

事務事業評価シート

(学校教育課)

(学校給食共同調理場)

総合評価ランク

А	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
В	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
С	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

目 次

1	教育委員の活動	•	•	•		•		•	•	12
2	授業の充実									
(1) 学校教育課指導室の設置(新規)	•	•	•	•	•	•	•	•	13
(2) 学力向上指導員の配置	•	•	•	•	•	•	•	•	14
3	道徳教育の充実									
(1) ふれあい教育フェスティバル	•	•	•	•	•		•	•	15
4	特別活動の充実									
(1) 小・中作品展の開催及び音楽交歓会の開催	•	•	•	•	•	•	•	•	16
5	体育・健康教育の充実									
(1) バイキング給食の日	•	•	•	•	•	•	•	•	17
(2) 学童スキー大会の開催	•	•	•	•	•	•	•	•	18
(3) 大会派遣費補助事業費	•	•	•	•	•	•	•	•	19
6	生徒指導の充実									
(1) 教育相談室設置事業(新規)	•	•	•	•	•	•	•	•	20
(2) 生徒指導委員会の充実	•	•	•	•	•	•	•	•	21
7	キャリア教育の推進									
(1) 職場体験	•	•	•	•	•	•	•	•	22
(2) 学力向上支援事業(人財育成助成金)	•	•	•	•	•	•	•	•	23
8	特別支援教育の充実									
(1) スクールサポーター配置の充実	•	•	•	•	•	•	•	•	24
9	国際化、情報化に対応する教育の推進									
(1) 英語で元気な町づくり事業	•	•	•	•	•	•	•	•	25
(2) ICT環境整備及び活用に向けた教職員の研修	•	•	•	•	•	•	•	•	26
10	研修の充実									
(1) 教職員ふるさと研修	•	•	•	•	•	•	•	•	27
11	教育環境の充実									
(1) 教育連携パートナーシップ協定事業(新規)	•	•	•	•	•	•	•	•	28
	2) 学校施設営繕・設備保全	•	•	•	•	•	•	•	•	29
(3) 教材備品の整備	•	•	•	•	•	•	•	•	30
12	その他									
	1) 教育広報の発行(新規)	•							•	
(2) 給食費の未納対策強化	•	•	•	•	•	•	•	•	
	3) 就学援助費事業	•	•	•	•	•	•	•	•	33
	学校支援活動									
	1) 学校支援推進事業	•	•	•	•	•	•	•	•	34
	学校保健の取組み									
(1) 児童・生徒各種健診及び教職員特定健診	•	•	•	•	•	•	•	•	35

施 策 名	その他	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育委員の活動	担当者名	飯田 満

事業の目的	教育長及	及び4名の教育委員が、領	毎月の定例会や行事等に	参加することにより、					
•内容	地域住民	地域住民の実情に応じた教育行政を展開する。							
事業の対象	教育委員	員・課長・課長補佐							
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算					
尹 未 复 	金 額	529 千円	374 千円	878 千円					

	・定例会の開催(毎月 年12回)
	※必要に応じて臨時開催あり
	・小中学校へ学校訪問(年1回)
	・小中高等学校の行事へ参加(入学式、運動会、卒業式等)
事業の実績	・その他、児童生徒に関する行事へ参加
•成果等 (数値)	・総合教育会議等で町部局との懇談(年2回)
(3/12)	・県内外の研修会等へ参加

事	必要性	(町民ニーズ)	に変化が	あり、事	業を行う必要が	あるか。)			
業の	■ 十分	}必要である		ロお	おむね必要であ [、]	る		あまり必要でない	
評	有効性	(施策や運営	方針等目	的の実	現に寄与してい	るか。)			
価	口十分	}寄与する		■ お	おむね寄与する			あまり寄与していない	
自	経済·欬	加率性(事務效	为率化、=	スト縮ジ	載しているか。)				
己評	自 経済・効率性(事務効率 己 ■ 十分できている			ロお	おむねできている	Ś		できていない	
一品	目標達	成度(計画通	りに目標	を達成で	できたか。)				
)	□ 達成	杖できている		■ お	おむね達成できて	ている		達成できてない	
自己	自己評価 B 優れた				いくつかあり、反	戈果が上が ⁻	ってし	い る	
			•		策等を協議し、				
 電/雨電台	明及び							等、新たな課題や取り	
	、課題	組みにつ	組みについては、教育委員の意見及び提言を反映させている。						
		会議録を	ホームペ	ージで	公表し、教育委	員の活動に	こつし	ハて理解を得る。	
	後の	口 さらに重	点化する	=	見直しのうえ継	≚続する		事業の縮小を検討する	
方向	句性	□ 休止、廃	産止を検討	すする	□ 事業完了				

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	В	В	C	В	В	В

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

研修等に参加してもらうのはいいが、その成果があまり見えないと思う。 教育委員の意見が町民にも分かるようしてほしい。

教育委員の募集は、町の広報で何回か見たことはあるが、報告は見たことがない。広報や掲示物などで少しでも報告してもいいと思う。そうすれば、次の教育委員の募集の際にも、活動内容を理解している町民が応募してくると思う。

教育委員の方々がどのような権限をもっているか分からないが、教育委員の 意見だけで物事を進めるのではなく、学校の意見を汲み取ってから、決定して ほしい。

- ・コミュニティスクールへの移行を考えると、教育委員には、どういう場でど のような内容の助言をいただくことになるか、イメージできない。
- 研修に行ってどうだったのかという内容のわかるものが発信されると、町民も教育委員の活動が分かると思います。
- ・普段見ている者としては、よく頑張っていただいていると思うが、全くふれ あう機会のない人たちには馴染みのない言葉であると思う。活動の様子等を教 育広報でお知らせしていただければ良いと思う。

施 策 名	授業の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学校教育課指導室の設置 (新規)	担当者名	吹越 麻衣子

事業の目的 ・内容	実した教の指導を	・学校教育全般の指導体制を整え、児童及び生徒の学力向上や体力向上などの充実した教育実践を図るため、学校職員研修の実施や教育課程の編成支援、教員への指導を行う。 ・小・中・高及び地域の多様な教育資源の活用を図り、より強固な連携を目指す。									
事業の対象	教師、り	見童生徒									
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算							
尹未貝	金 額	一 千円	一 千円	一 千円							

		・他町村を含む学校からの要請訪問に対応し、学習指導及び生徒指導について教 員へ助言を行った。
事業の ・成界 (数f	等	・学校教育課に関わる会議等に出席し、教員の知見から今後の野辺地町の教育に 資する知識・情報を提供した。

事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化が	あり、事業	業を行う必要が	あるか。)		
業の	■十分	}必要である		□おお	むね必要であ	る	□ あまり必要でない	
評	有効性	(施策や運営:	方針等目	的の実現	見に寄与してい	るか。)		
価	■ 十分	寄与する		□ おお	むね寄与する		□ あまり寄与していな	いば
自	経済·贫	加率性(事務效	カ率化、□	スト縮減	しているか。)			
己	一十分	うできている		■ おお	むねできている	3	□ できていない	
評価	目標達	成度(計画通	りに目標	を達成できたか。)				
<u> </u>	□ 達成できている			■ おお	むね達成でき	ている	□ 達成できてない	
自己	評価	В	優れた耳	奴組みがし	ハくつかあり、瓦	戈果が上がっ	っている	
評価説明及び 考察、課題		年度は2名	体制とし 交通級指	、実践的 導教室の]コミュニティ)開設に向けた	ースクール	を行に負担があった。 含シロ の検討や、いじめ対象の検討や、いじめ対象の 要望等、野辺地町の	彰基本
	後の 句性		点化する	_	見直しのうえ糸 □ 事業完了	迷続する	□ 事業の縮小を検討	する

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	O	В	В	В	В	_

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

平成30年度新規事業のため、前年度評価なし。

- ・いじめ対策基本方針(改訂版)の遅れ。また、方針が定まったとしても運用面で不備があると、保護者とのクレーム問題が深刻化する可能性もあるので、各校のいじめ対策についても目を通した方が良い。
- ・新規事業ということなので、今後の学校教育課指導室の方向性が確実に良い方向へと歩まれることを望みます。
- もう少しわかりやすい仕組みの説明がほしい。

施 策 名	授業の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学力向上指導員の配置	担当者名	木村 卓磨

事業の目的 ・内容	①学力向上を図るため教職員への指導及び児童生徒へ直接学習指導をする非常 勤臨時職員(学力向上指導員)を1名配置する。活動内容としては、小・中学校 へ訪問指導するほかに、土曜日や長期休業中に、中央公民館にて小・中学生を 対象とした学習会を開催する。 ②小学校の外国語活動において、ALTの補助を行う非常勤臨時職員(ALT補 助員)を1名配置する。活動内容としては、小学校の英語の授業において、AL Tの補助をする他、担任への指導及び助言を行う。					
事業の対象	教職員	教職員及び児童生徒。				
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算		
尹 未 貝	金 額	2,226 千円	2,548 千円	1,467 千円		

事業の実績・成果等(数値) ・学校訪問指導(町内小・中学校) 86日 ・放課後学習会(小学生対象) 4月~2月(原則各校週一回)・中学生学習会(土曜日・夏休み・冬休み) 参加者延べ人数110人・小学生夏休み学習会 8回(3校合計) ②ALT補助員・小学校訪問 115日

事	必要性	(町民ニーズ)	に変化が	あり、事業を行う必要があるか。)				
業 の	口十分	}必要である		■ おおむね必要である	□ あまり必要でない			
評	有効性	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)						
価	■ 十分	寄与する		□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない			
自	経済·欬	加率性(事務交	物率化、二	コスト縮減しているか。)				
己 評	口 十分	分できている		■ おおむねできている	□ できていない			
価	目標達	成度(計画通	りに目標					
)	□ 達成できている			■ おおむね達成できている	□ 達成できてない			
自己評価					うている			
□学力向上指導員については、授業参観において、授業の指導方法やちょっとした言動等に対しても細かな指導がなされており、教員の指導力向上に繋がっていると、学校からの評判は概ね良いが、学力調査等の結果においては、目に見えるような成績の向上はない。令和元年度は人員が変わったことに伴い、学習会は実施せず、授業参観のみとする。 ②ALT補助員については、担任、ALTと連携して英語の授業を進めており、重要な役割を担っている。令和元年度は、小学校に英語専科教員を配置したことに伴い廃止する。								
	業の 句性	口 さらに重			□ 事業の縮小を検討する			

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	В	В	C	В	В	В

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

学力向上指導員については、きめ細かな指導に向けて、先生方の指導力の向上に繋がっていると思う。

ALT補助員の配置は、学校からの要望だとしても、一度ALTから、補助員がいることで授業がやりやすいのかやりにくいのかを聞いた方がいいと思う。

子どもたちは助けがあるとその人を頼ってしまう傾向があると思う。

英語の時間は、どっぷり英語につかるということが必要だと思うが、補助員 が出すぎていたりしていないか。

- ・中央公民館での学習会はPR不足。また、初期登録制だけでなく、いつからでも参加できるようにできないか。
- ・学力向上指導員がいても学力についてあまり向上が無いことを知り、必要性 をあまり感じていない。各学校の先生方との関係においては、良い点もあると いうが、先生方の指導と共に、今後の教育に励ましと希望、やりがいを湧き立 たせるような方向に導いてほしい。
- ・児童生徒の学力向上のため学力向上指導員を配置してきたが、成果が見える 前に廃止になり、事業の継続の在り方をもう少し考えてもらいたい。

施策名	道徳教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	ふれあい教育フェスティバル	担当者名	飯田 満

	町では、毎月20日を「ふれあい教育の日」「家族ふれあい読書デー」に制定。					
事業の目的	読書や読み聞かせを通して、人と人とのふれあいやコミュニケーションを					
•内容	深め、心豊かな生活を享受することを目指し、「ふれあい教育フェスティバル」					
	を開催し	を開催した。				
事業の対象	町民一船	町民一般				
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算		
尹 未	金 額	241 千円	232 千円	200 千円		

事業の実績・成果等(数値) ・実施日時 平成30年11月18日(日) 13:00~15:00 ・実施場所 中央公民館 ・実施内容 読書感想文コンクール入選作品発表、図書館サークル発表、各種展示講演(「ツガルさん」著者 藤島由美氏) ・来場者数 約110名 ・参加者からのアンケートとして、「講演内容が良かった」「絵本の楽しさが分かった」「子どもたちの参加者が少なかった」などがあった。 ・文化及びスポーツの内容を、交互に開催している。

事業の	必要性	(町民ニーズ)	こ変化が	あり、事業を行う必要があるか	\ _o)			
	□ 十分必要である			■ おおむね必要である	□ あまり必要でない			
評	有効性	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)						
価	口十分	寄与する		■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない			
自	経済·贫	加率性(事務效	カ率化、コ	コスト縮減しているか。)				
自己評	口十分	□ 十分できている		■ おおむねできている	□ できていない			
価	目標達	成度(計画通	りに目標	を達成できたか。)	•			
)	□ 達成できている			■ おおむね達成できている	□ 達成できてない			
自己	評価	В	優れた耶	収組みがいくつかあり、成果が	上がっている			
		親と子が、	ふれあう	機会創出をテーマとしている	るため、子どもが参加する内容、			
 評価説	明及び	親子が参加してふれあう行事にしたい。						
考察、課題		・文化団体及びサークルと協働で実施したい。						
事業	•	口 さらに重	点化する	■ 見直しのうえ継続す	る □ 事業の縮小を検討する			
方向	句性	□ 休止、廃	止を検討	対する □ 事業完了				

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	В	В	В	В	Α	Α

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

やはり青森山田高校の演技は素晴らしかった。

来場していた子どもたちに、高校生がうまく補助しながら、簡単な演技をやらせていたのが良かった。

来場者も多く、内容が良かったと思う。

テーマによって来場者数に差がありすぎるので、内容を工夫してほしい。

※平成29年度の実施内容

- 「あすなろレディース」「3B体操協会」の演技披露
- ・「青森山田高等学校体操部」の演技披露
- ・来場者数 約600名

- ・宣伝とアピールが大事だと思う。予算をかけてイベントを催しているのだか ら。
- ・本物の温かい「ふれあい」とは、一体どんなものなんだろう。何かをきっかけにお互いが互いに思いやり、存在をしっかり確認しあい、感謝できるような場となる「教育フェスティバル」となってほしい。読書を通して、豊かな創造性を膨らませ相手を思いやる心が育ってほしい。
- ・とても良い事業であるが、対象者を明確にどのような内容が良いのか、これ から議論の必要がある。

施策名	特別活動の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	小・中学校作品展の開催及び音楽交歓会の開催	担当者名	小又 美穂

事業の目的 ・内容		小中連携事業の一環であり、特に音楽交歓会においては、幼稚園や高等学校 と交流する機会を設けたりしている。					
事業の対象	町内の約	町内の幼児、児童生徒					
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算			
尹未り	金 額	50 千円	60 千円	50 千円			

	・作品展については絵画・版画合わせて286作品から入賞作品185点が
	選ばれた。学年が上がるにつれて成長する表現力や個性が審査員に評価され、
	集中力やものごとの見方・感じ方を育てることに繋がった。
	・音楽交歓会については、野辺地小学校の体育館を会場に各小学校5・6年生、
事業の実績	中学校吹奏楽部、ゲストとしてカトリック幼稚園の園児が発表を行った。
┃ ・成果等 ┃ (数値)	・事前に各学校に町民歌のCDを配布して練習を行い、交歓会の最後に町民・
	児童生徒全員で斉唱した。

事	必要性	要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)					
業の	■ +5	}必要である		〕おおむね必要であ	る	□ あまり必要でない	
の 評	有効性	効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)					
価	口十分	♪寄与する		■ おおむね寄与する		□ あまり寄与していない	
自	経済·欬	加率性(事務效	カ率化、コス	ト縮減しているか。)			
己	■ 十分	分できている		」おおむねできてい	る	□ できていない	
評価	目標達	成度(計画通	りに目標を記	達成できたか。)			
\sim	■ 達成できている			」おおむね達成でき	ている	□ 達成できてない	
自己	.評価	Α	優れた取組	且みが多く、十分成果	が上がって	いる	
		地域住民	への町の子	どもたちの日頃の学	学習の成果を	を発表する場となっている。	
評価説	明及び	また、児童生徒が他の学校の子どもたちのがんばりを見ることによって、刺激					
考察、	、課題	になってい。	る。実行委	員会で自衛隊の音楽	薬隊を招い	てはどうかとの意見も出たが	
		予算面や時	間の関係で	難しいとの結論に至	至った。		
今後	 後の	■ さらに重	点化する	□ 見直しのうえ糸	迷続する	□ 事業の縮小を検討する	
方向	句性	口 休止、廃	止を検討す	「る □ 事業完了			

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	A	В	A	Α	А	Α	A

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

プロの団体が一つでもあればよりよいのではないか。やはり、一流の音楽を 聴かせてあげたい。

野辺地中学校の演奏を、小学生が聴くことができる非常にいい機会だと思う。

評価委員意見(平成30年度)

予算の限られている中で開催されていることに感謝しています。作品や音楽の文化を通じて、交流できる町民の場として、今後も続けられるよう望んでいます。

施策名	体育・健康教育の充実	担当課名	学校給食共同調理場
事務事業名	バイキング給食の日	担当者名	浜野 裕子

	バイき	キング方式での	の給食を通り	て 主角・		たバランス b	- / 白分で		
事業の目的	医の目	選ぶ能力を身に付け、苦手な食べ物にもチャレンジする気持ちを促す。							
・内容	・マナー	ーを学ぶことだ	ができ、若ノ	小と馬小児童	の顔合わせん	こなることか	いら修学旅行		
,,,,	の事前	の事前学習として役立てられていると考える。							
	・出前控	・出前授業を行い食育指導を実施する。							
古类の対角	バイキン	バイキング給食:小学校5年生 (若小・馬小合同)							
事業の対象	食育指導	食育指導:小中学校児童生徒							
事業費	年 度	平成 29 4	年度決算	平成 30	年度決算	平成 31	年度予算		
ず、未、 負	金 額	_	千円	_	千円	_	千円		

事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化があり、事業を	行う必要があるか。)			
業の	■十分	}必要である	□ おおむれ	ね必要である	□ あまり必要でない		
評	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)						
価	■ 十分	寄与する	□ おおむれ	 a寄与する	□ あまり寄与していない		
自	経済·欬	加率性(事務交	率化、コスト縮減して	(いるか。)			
己評	口十分	かできている	■ おおむれ	ねできている	□ できていない		
価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)						
)	■ 達成	えできている	□ おおむれ	ね達成できている	□ 達成できてない		
自己	日己評価 人 優れた取組みが多く、十分成果が上がっている						
	【成果】食育指導の実施で偏りのない食事のとり方等を理解したり楽しく食事をとれるよう学び、苦手なメニュー(食材)も食べるようになっている。						
今後 方向	7		点化する ■ 見ī 止を検討する □	直しのうえ継続する 事業完了	□ 事業の縮小を検討する		

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	A	A	A	Α	А	Α	Α

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

すごく素敵な取り組みだと思う。実際に参加してみた	たい。
子供たちはとても楽しみにしている。	
何を食べるのか勉強になる。	
修学旅行の際のバイキングの練習になる。	

- ・子供たちは非常に楽しみにしている。栄養士や調理員の皆さんへの感謝の心を育てていくのが教師の役目と感じる。
- これからも枠を広げ、頑張っていただきたい。

施 策 名	体育・健康教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学童スキー大会の開催	担当者名	吹越 麻衣子

	①町内の	即内の学校の冬季体育(学校スキー)交歓を通して、運動能力の向上を図る。						
事業の目的	②大会参	②大会参加を目指して練習・努力する過程を通して、人間性の育成を図る。						
•内容	3/1/-/	③ルールに従い培った能力を表現する活動を通して、正しい競技参加能力を						
	育てる	育てる。						
事業の対象	小学4年、5年、6年生							
事業費	年 度	年 度 平成 29 年度決算 平成 30 年度決算 平成 31 年度予算						
尹 未 其	金 額	287 千円	284 千円	287 千円				

	教育振興会主	催の事業であり)、運営に係る費	用は町からの補助金となる。					
	使い途としては	、主に児童を記	送迎するためのパ	ズ借上料が約半分を占める。					
	○参加児童数の	推移(4年、5年	F、6年生の合計)						
事業の実績 ・成果等		H29年度	H30年度	H31年度(推定)					
(数値)	野辺地小学校	159 人	142 人	129 人					
	若葉小学校	107 人	114 人	119 人					
	馬門小学校	21 人	21 人	18 人					
	(合計)	287 人	277 人	266 人					

I	事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化が	あり、事業を行う必要があるか。)		
l	業 の	□ 十分	}必要である		■ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
l	評	有効性	(施策や運営:	方針等目	的の実現に寄与しているか。)		
l	価	口十分	寄与する		■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
l	自	経済·贫	加率性(事務效	物率化、□	スト縮減しているか。)		
l	己	口十分	うできている		■ おおむねできている	□ できていない	
l	評 価	目標達	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)				
l	· ·	□ 達成	えできている		■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	
自己評価				っている			
アキー発祥の地として、本大会は町の伝統の一つであり必要性は高い。例年協元 不足が課題となっていたが、H30年度は業務の見直しをし協力者の必要数を減らした。各校保護者の負担も減り、また運営面で支障がなかったことから取り組みを終する。アルペン参加児童が野小のみとなっており、他校交流を図るのが難しくないる。						し協力者の必要数を減らし ったことから取り組みを継続	
今後の □ さらに重点化する ■ 見直しのうえ継続する □ 事業の縮小を				□ 事業の縮小を検討する			
l	方向	付性	□ 休止、廃	止を検討	付する 🗆 事業完了		

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	В	В	В	В	В	В

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

広報などで周知をしてはどうか。保護者やOBの中には、手伝いたくてもどこに問い合わせたらいいのか分からずにいる人が結構いる。広報などで事前に手伝いのお願いや実施の周知をして実施すると平日でも来てくれる人はいると思う。

- ・協力人員配置の見直しによって、運営の流れがスムーズになったと聞き安心したが、今後、協力参加できる方々を増やして、一緒に活動できるように、1回1回の行事を大切に人材育成をしていく必要がある。多くの目と心と体で将来・未来のある児童たちの育成に協力できたらと願う。
- ・児童の減少により、大会自体盛り上がりがなくなってしまったが、スキー 発祥の地として何かしらの対策をとって盛り上げてもらいたい。

施 策 名	体育・健康教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	大会派遣費補助事業	担当者名	橋本 幸子

		ALLE 1-31 30		/> /						
+ W = 0 + L	小中等	学校の部活動、スポーツ	・文化活動において大会	へ参加するための交通費						
│ 事業の目的 │ ・内容	や宿泊費等を補助する事業であり、保護者の負担を軽減するとともにスポー									
	文化活動	化活動の振興を図るものである。								
事業の対象	小中学校	ト中学校、スポーツ少年団など								
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算						
す 未	金 額	4,458 千円	4, 296 千円	4,000 千円						

	(中学校) 東北大会:柔道、ハンドボール、スキー等
	全国大会:スキー、軟式野球女子、ハンドボール、空手選手会・
	中学校部活動他…21大会 3,821,753円
	(スポ少) 全日本卓球選手権(兵庫県)、全日本少年少女空手選手権(東京都)
事業の実績	全日本レスリング選手権(東京都)、ジュニアスキー選手権(北海道
┃ ・成果等 ┃ (数値)	全国ホープス選抜卓球大会(岐阜県)…5大会 473,699円
(34)	※交通費・宿泊費等は、指導者全額・選手半額の補助となっている。

事 業	必要性	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)									
	■十分	}必要である		」おお	むね必要である		□ あまり必要でない				
の 評	有効性	(施策や運営	方針等目的	の実現	見に寄与しているか。	。)					
価	■ 十分	♪寄与する		」おお	むね寄与する		□ あまり寄与していない				
自	経済•贫	加率性(事務效	か率化、コス	ト縮減	しているか。)						
己評	口十分	分できている		▮おお	むねできている		□ できていない				
一価	目標達	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)									
\sim	■ 達成	艾できている		」おお	むね達成できている	3	□ 達成できてない				
自己	自己評価 人 優れた耳			目みがま	多く、十分成果が上	がってし	いる				
		県内の大	きな大会は	、町バ	ベス (予算内) で対応	「し交通	通費がかからないようにして				
評価説	明及び	いる。選手	以外で参加	する剖	3員等は、宿泊費な	とど対象	象とならないが学校からは、				
考察.	、課題	補助して欲しいという意見がある。									
	後の	口 さらに重	点化する		見直しのうえ継続す	る	□ 事業の縮小を検討する				
方[句性 ————	□ 休止、廃	止を検討す	⁻ る	□ 事業完了						

事務評価委員の評価

	_	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	Α	Α	В	Α	Α	A	А

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

この事業は、力はあって色々な大会に参加したいが、金銭的に参加が難しい子どもを援助するという意味を持っていると思うので、とてもいい事業だと思う。ただ、一つ気になるのが、どうしても競技に偏りが見られる。しかしその分、スポーツ少年団や体育協会などに、上手に対し援助をしているとは思う。 保護者にとってはとてもうれしい事業だと思う。

- ・例に挙げられていた卓球の東北大会で、練習相手にも補助を適用したという のは大賛成。このように、理由があって、選手以外にも援助するのはよいと思 う。
- ・各活動に対して全部に満足できる予算が不足している中でも、夢を持ってつき進んでいる子どもたちと、それを応援している保護者・関係者が一生懸命支えていることに対して感謝しています。ここでしか得られない体験をしている子どもたちが成長し、親となったときに、逆に支え、指導者としてこの町で活動している日が来るような時を思うと、予算を増やしていただきたい。
- ・少しでも負担が減るのはとても嬉しいことである。同時に、感謝と頑張ろうという意欲も湧いてくる。

施策名	生徒指導の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育相談室設置事業(新規)	担当者名	吹越 麻衣子

事業の目的 ・内容		町勤労青少年ホーム内に野辺地町教育相談室を設置し、教育相談や不登校支援 等を実施している								
事業の対象	児童生徒	皇主徒・保護者・教師								
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算						
尹未良	金 額	一 千円	3,615 千円	4,507 千円						

○教育相談室の設置 適応指導員、スクールソーシャルワーカー、臨時職員の3人体制により、教育 相談に対応。相談受付:月~金、9時~15時。 ○相談実績 面接相談(来室・訪問等) 子ども 35名、 大人 186名、 計 221名 子ども 1名、大人 436名、計 437名 電話相談 事業の実績 総計 658名 •成果等 ○通室活動実績 (数値) 中学生併せて5名の通室があった。5名合計年間296日の出席があり、学校 出席日数に換算されている。 ○スクールカウンセラーの配置 ・予算については、県費負担。配置拠点校及び配置人数は1名。 ※野辺地中は年間40日、野辺地・若葉小は年間12日の配置。 ・延べ相談者数は、野辺地中50名、野辺地小26名、若葉小11名。

事	必要性	(町民ニーズ)	に変化が	あり、事	業を行う必要があ	るか。)	
業の	■ 十分	}必要である		□おお	むね必要である		□ あまり必要でない
評	有効性	(施策や運営	方針等目	的の実現	見に寄与している	か。)	
価	■ +5	}寄与する		□おお	むね寄与する		□ あまり寄与していない
自	経済·欬	カ率性(事務交	物率化、二	スト縮減	しているか。)		
己	口 十分	分できている		■ おお	おむねできている		□ できていない
評価	目標達	成度(計画通	りに目標	を達成できたか。)			
<u> </u>	□ 達原	丈できている		■ おお	むね達成できてし	ハる	□ 達成できてない
自己	.評価	В	優れた耳	対組みが	いくつかあり、成男	見が上がっ	っている
		٥	12.13.	,, _ .,			
	評価説明及び 校とも必要に応じて			やり取り)をし、相談者の	悩みの軽	oり、町健康づくり課や各学 経滅に取り組んでいる。 遅なことから指導員の負担が
今後	多の	■ さらに重	点化する	· □	見直しのうえ継続	売する	□ 事業の縮小を検討する
方向	句性	□ 休止、廃	産止を検討	すする	□ 事業完了		

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	Α	В	В	В	В	_

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

平成30年度新規事業のため、前年度評価なし。

- ・不登校支援においては、無くてはならない事業。中学生の通室が多くなれば、小学生への指導が手薄にならないかだけが心配。
- ・さまざまな環境で生きている私たちですが、子どもの心だけでなく、親である私たちの心や経済的な「ゆとり」が努力しても得られない時代だと思います。一人一人に心で接して、心の筋肉が強くなれたらと願っています。心のよりどころとなる相談室になることを望んでいます。
- ・これから先、絶対必要な政策の一つとなってくると思うので、頑張ってい ただきたい。

Ī	施策名	生徒指導の充実	担当課名	学校教育課
I	事務事業名	生徒指導委員会の充実	担当者名	吹越 麻衣子

事業の目的 ・内容		中・高で連携し問題行動の 算委員会活動費 10千円	のある子を指導、見守りし	していく体制を整える。
事業の対象	小・中・	・高生徒指導教諭・警察	・上北教育事務所・教育系	委員会・健康づくり課
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
尹未良	金 額	10 千円	10 千円	10 千円

年 5 回生徒指導委員会を開催。 小学校・中学校・高校・警察・

•成果等

(数値)

平成30年6月~平成31年1月

小学校・中学校・高校・警察・上北教育事務所・教育委員会・健康づくり課 の職員で情報交換を行い、児童生徒の問題行動に関し情報共有することにより、 問題解決に町ぐるみで取り組んだ。

夏祭り期間の巡回指導や、交通安全運動に合わせて登校指導の実施や中1 ギャップの解消として、アンケートを実施し1日入学で説明した。

事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化が	あり、事	業を行う必要がある	るか。)	
業の	■ 十分	}必要である		□おオ	おむね必要である		□ あまり必要でない
評	有効性	(施策や運営	方針等目	的の実	現に寄与しているか	١,)	
価	□ 十分寄与する			■ おお	おむね寄与する		□ あまり寄与していない
(自己	経済·贫	カ率性(事務交	カ率化、コ	スト縮洞	しているか。)		
己	■ 十分できている			□おオ	おむねできている		□ できていない
評価	目標達	成度(計画通	りに目標	を達成で	ごきたか。)		
Ç	■ 達成	杖できている		□おオ	おむね達成できてい	る	□ 達成できてない
自己評価 A 優れた耳			優れた耳	奴組みが	多く、十分成果がよ	上がってい	ふ
○学校、教育委員会 評価説明及び 考察、課題						で、検討・対応が必要な事った。	
今後の		口 さらに重	点化する	=	見直しのうえ継続	する	□ 事業の縮小を検討する
方向	句性	□ 休止、廃	止を検討	する	□ 事業完了		

事務評価委員の評価

	_	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	Α	В	Α	Α	Α	В	В

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

小・中学校で足並みを揃えて取り組めているのがいいと思う。 様々な機関と連携が取れており非常に良い。

- ・アンケートの結果から、改善・新計画を立てるところまでいって成果と言える。
- 一人でもたくさんの温かい目があると安心です。
- ・問題が無いことが成果であり、今後も関係機関の連携が大切と思う。
- ・共通の認識を持つという情報交換の機会としては良いことだと思う。

施策名	キャリア教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	職場体験	担当者名	飯田 満

	一人一人の子どもが自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、 必要な基盤となる資質・能力の育成を図るため、小中学校等の教育活動を支援 する。						
事業の対象	中学校3	中学校3年生、小学校6年生					
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算			
事 未 貸	金 額	0 千円	0 千円	0 千円			

・野辺地中学校:11月に職場体験を実施。
町内事業所約32事業所で職場体験を行い、学校外で仕事を体験したり、普段気
が付かない仕事などの裏側を体験し、事業所の方からのアドバイスをうけなが
ら貴重な体験をしている。
・野辺地小学校:9月に6年生が職場体験を実施。

事業	必要性	(町民ニーズ)	こ変化が	あり、事業を行	う必要があるか。)		
業の	■十分	}必要である		□ おおむね	必要である	□ あまり必要でない	
評	有効性	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)					
価	口十分	寄与する		■ おおむね	寄与する	□ あまり寄与していない	
自自	経済·贫	加率性(事務效	カ率化、□	スト縮減してし	い るか。)		
自己評価	■ 十分	かできている		□ おおむね	できている	□ できていない	
一一一	目標達	成度(計画通	りに目標	を達成できたか	・ を達成できたか。)		
)	□ 達成できている			■ おおむね	達成できている	□ 達成できてない	
自己	評価	В	優れた耳	双組みがいくつ	かあり、成果が上な	ぶっている	
評価説明及び 考察、課題)職場体験、高校 をけ入れていきた	生のインターンシップ、大 い。	
今後		■ さらに重	点化する	□ 見直	しのうえ継続する	□ 事業の縮小を検討する	
方向	向性	□ 休止、廃	止を検討	する 🗆 🛚	事業完了		

事務評価委員の評価

	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	A	Α	Α	В	В	Α	В

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

小学校の場	合は、学校フ	いら商業	協同組合に	依頼し	ているが、	町では、	より広
く事業所への	依頼をお願い	いしたい。					

- ・各事業所が無償で受け入れてくれていることは感謝しかない。野辺地町は子供の教育に対しては、一肌脱ぎましょうという精神が根付いていると感じる。 行政には、受入れ事業所であることの表示(ステッカー等)を作成、配布して ほしい。
- ・相手があっての職場体験なので、良い学びの時となると思います。社会に出 る一歩がこれからの人生の大きな前進につながっていくことを望みます。
- ・小さい頃の体験はとても大事で、かけがえのないことなので、各事業所の皆 様の協力には、感謝の気持ちでいっぱいです。

施策名	授業の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学力向上支援事業(人財育成助成金)	担当者名	橋本 幸子

事業の目的 ・内容	受ける生間講習会事業の目のでは、日本	町内の高等学校に在籍している生徒のうち、国公立・県立大学の入学試験を受ける生徒を対象に、長期休業中を利用して民間の学習塾が実施している短期間講習会を受講する経費(受講料、交通費、宿泊費)を、町から助成金を交付する事業。 目的は、生徒の学力向上、町内高等学校の進学率向上とそれに伴う高校の魅力づくりを図ること。今年度交付要綱を変更し、交付対象事業に外国語によるコミュニケーション能力を養うための短期間海外研修を加えた。					
事業の対象	町内の	町内の高等学校に在籍している生徒。					
事業費	年 度	平成	29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算		
する。	金 額		1,349 千円	1,340 千円	1,500 千円		

	①【期間】平成30年8月6日~8月11日【場所】河合塾仙台校 野高1年生1人124,350円
	②【期間】平成31年1月2日~1月7日【場所】河合塾仙台校 野高2年生2人318,600円
	③【期間】平成31年1月27日~2月3日【場所】フィリピン(八戸学院カーテル校)
事業の実績・	【人数】八戸学院野辺地西高等学校 2年生1人 1年生1名【金額】363,784円
成果等 (数値)	④【期間】平成30年12月19日~12月23日【場所】シンガポール【人数】野高2年1人
	【期間】平成31年1月6日~1月10日【場所】台湾【人数】野高1年1名2年1名 【金額】160,800円
	⑤【期間】平成31年3月27日~3月30日 【場所】仙台養賢ゼミ 春期講習会
	【人数】野高1年生3人2年生4名 【金額】371,864円 ※事業利用者2名国公立大合格

事	必要性	(町民ニーズ	こ変化が	あり、事業を行う必要があるか。)			
業の	口十分	}必要である		■ おおむね必要である	□ あまり必要でない		
評	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)						
価	口十分	寄与する		■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない		
自	経済·贫	加率性(事務效	カ率化、□	1スト縮減しているか。)			
己評	口十分	かできている		■ おおむねできている	□ できていない		
価	目標達	成度(計画通	りに目標	を達成できたか。)			
)	□ 達成できている			■ おおむね達成できている	□ 達成できてない		
自己	評価	В	優れた耳	取組みがいくつかあり、成果が上か	うている		
参加者はH29:16人→H30:14人。今後、本事業の更なる発展に向け、学校とより共理解を図っていきたい。 理解を図っていきたい。 経済的な問題が解決されるなら予備校に通い、学力向上を図りたいという要望があり、事前に助成金を支給するようにしてる。また、大学受験の際は、生徒個人で出かなければならないことを踏まえ、生徒の意識改革等の為引率への助成は極力しない。また、私立大を受ける生徒まで枠を広げてもよいのではという意見もある。							
	事業の 方向性 □ 休止、廃止を検討する □ 事業完了 □ 本がに重点化する □ 事業完了						

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	В	В	В	В	Α	В

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

3人が国公立大学に進学しているのはすごいと思った。

予算に余裕があれば大学のオープンキャンパスへの参加にも、対応できるようにしてはどうか。オープンキャンパスに参加することで、大学進学への意識が高まるのではないか。

逆に講師を野辺地町に呼んで、図書館等で夜に学習させるなどして、夜の家 庭での勉強の仕方を学ばせるのもいいと思う。ただし、無料ではなく、ある程 度参加費をもらってやる方が、モチベーションも高まると思う。

- ・今後、野辺地町に講師を呼んで、勉強の仕方やこれからの人生を歩んでいく 仕事の選択を決めるチャンスになってほしいと望みます。
- 目に見える成果を上げていてすばらしい。もっともっと力を入れていただきたい。

施策名	特別支援活動の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	スクールサポーター配置の充実	担当者名	木村 卓磨

事業の目的 ・内容	別な支払	町内学校において障害をもつ児童生徒や学習が遅れがちな児童生徒等の、特 別な支援を必要とする児童生徒の生活や学習を支援するためのスクールサポー ターを設置する。			
事業の対象	町内/	町内小・中学校			
事業費	年 度	平成	29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
す 未	金 額		12,892 千円	13,541 千円	15,032 千円

	○配置人数の推移					
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	野辺地小学校	1 人	3 人	3 人	3 人	4 人
	若葉小学校	1 人	2 人	3 人	3 人	4 人
事業の実績	馬門小学校	1 人	1人	2 人	3 人	2 人
•成果等 (数値)	野辺地中学校	1 人	2 人	2 人	2 人	3 人
	※野辺地中学校3名	名のうち1名	は7月から	教育相談室は	こ異動した。	
	※若葉小学校4名の	のうち1名に	は10月から	産休を取得し	た。	
	○H30年度特別支援	教育支援員	スキルアップ	プ研修参加状	況	
	延べ10名(内	羽新規採用者	·3名)			

事	必要性	 (町民ニーズ)	 こ変化が				
業	■十分	 }必要である		□ おおむね必要である	□ あまり必要でない		
の 評	有効性	(施策や運営	方針等目	的の実現に寄与しているか。)			
価	■ 十分	寄与する		□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない		
自	経済·贫	加率性(事務效	動率化、□	スト縮減しているか。)			
己評	口十分	かできている		■ おおむねできている	□ できていない		
価	目標達	成度(計画通	りに目標	を達成できたか。)			
)	■ 達成	えできている		□ おおむね達成できている	□ 達成できてない		
自己	評価	Α	優れた耳	双組みが多く、十分成果が上がって	いる		
評価説考察、		町内学校においては、特別な支援が必要な児童生徒は年々増加傾向にあり、学校が要求するスクールサポーターの人数も増えてきている。令和元年度においても増員している。今後も、財政課と調整しながら、できる限り学校の要望に応えていきたい。 研修に関しては、H30年度から、県教育委員会主催の特別支援教育支援員スキルアップ研修にスクールサポーターを参加させ、発達障害等の児童生徒に対する学習支援の実践的な知識の習得など、資質を向上させた。今後も継続していきたい。					
今後 方向							

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	Α	Α	A	Α	Α	В	Α

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

	学校の要	望に広え	ていただきあ	らりがたい			
			· · · - · · ·		能力差がある。	全体の資質向よ	_の
<i>t</i> :	めの取組	みを行っ	てほしい。				

- ・スクールサポーターの研修はとても良いと思います。
- とても良い事業である。ただサポーターの皆さんの個々に力の差があるので、そこを見極め、適切な人の配置をお願いしたい。

施策	名	国際化、情報化に対応する教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名英語で元		英語で元気な町づくり事業	担当者名	小又 美穂

	英語指	導を行う) 外国語指導助手	- (ALT) の派遣事業。小学	² 校からの英語コミュニ
事業の目的 内容	ケーショ	ン能力育	 	への円滑な移行を図るととも	っに、幼少期からの英語
	指導によ	り英語教	対育に順応しやすい	児童生徒の育成を図る。	
事業の対象	児童生徒	記童生徒及び幼児、一般町民			
事業費	年 度	平成	29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
尹 未 貝 	金 額		4,551 千円	10,481 千円	10,672 千円

*** **ALTを各小・中学校、野辺地保育園、野辺地カトリック幼稚園及び**公民館等での英語指導に配置した。
・各幼保小中への配置による英会話や異文化理解指導。
・イングリッシュクッキングの開催。
(12月15日開催 小中学生9名・保護者、未就学児等3人)
・図書館、公民館での英会話教室、サークル等に配置.

	事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化が	あり、事	業を行う必要があ	るか。)		
	業 の	■十分	}必要である		□ おお	おむね必要である		□ あまり必要でない	
	評	有効性	(施策や運営	方針等目	的の実	現に寄与している	か。)		
	価	■ 十分	}寄与する		□ おお	おむね寄与する		□ あまり寄与していない	
	自己	経済·贫	加率性(事務效	物率化、=	スト縮源	ばしているか。)			
	己評	口十分	分できている		■ おお	おむねできている		□ できていない	
	価	目標達	成度(計画通	りに目標	を達成で	ごきたか。)			
	\smile	□ 達成	杖できている		■ おお	おむね達成できてい	ハる	□ 達成できてない	
	自己	評価	С	成果が一	ト分に上	がっておらず、改善	善の余地だ	が多い	
			各小中学校	を及び保育	園や幼科	推園での指導の他、	一般町民	向けの英語教室でも指導	
部	平価説	明及び	を行い、世代	た問わず	*英語に角	虫れる機会の提供が	ぶできた。		
	考察、	課題	イングリッ	シュクッ	キングの	D開催については、	広報や児	皇生徒一人一人へのチラシ	
			配布を行った	が参加者	が少なた	いったので町facebo	ook等での	PRを考えていきたい。	
	今後		口 さらに重	点化する)	見直しのうえ継続	たする	□ 事業の縮小を検討する	1
	方向	1性	□ 休止、廃	止を検討	する	□ 事業完了			

事務評価委員の評価

	Ъ	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	В	O	C	В	В	В

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

参加人数が少ない。

知らない人が多いので、もっと啓発活動をしてほしい。大々的にPRしてもい いと思う。一部の人たちでやっている感じがある。

年齢の幅を広げて、もっと町民が参加できるようなものになっていけばいいなと思う。

イングリッシュデイについては、チーム野Openなどの団体とコラボレーションしてはどうか。

- ・ALTには満足している。
- ・クッキングやスポーツ等、英語だけのアクティビティをもっと企画してほし い。小中学校での宣伝も更に必要。
- ・日本にいて海外のことを知る場となったら楽しい感じがするのですが。英語 の勉強となるとなかなかおっくうになるので、ここが、イギリスやアメリカと か、本物に近いイベントなどあればワクワクします。
- ・ふれあうチャンスをもう少し簡単に。

施 策 名	国際化、情報化に対応する教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	ICT環境整備及び活用に向けた教職員の研修	担当者名	杉山 拓

事業の目的 ・内容	コン 度 ある。 た、 ログラ	科学省が、平成30年度以降 ユータについて、1人1台を 置を想定することが適当と 新学習指導要領の中では ミング教育についても明記 CT活用スキルの向上も図	を望ましいとしながらも、 との方針を示し、各学校の は、各教科におけるICTの 記されており、環境整備。	3クラスに1クラス分程 DICT環境整備が急務で 適切な活用のほか、プ		
事業の対象	教職員及	教職員及び生徒など				
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算		
尹 未 其		0 千円	0 千円	7,682 千円		

	○ICT環境整備に関するアンケート調査 実施 (10月)
	○第1回 情報教育研究委員会 開催 (2月)
	(内容) アンケート調査の結果をふまえたICT環境整備方針の検討
事業の実績 ・成果等	○第2回 情報教育研究委員会 開催 (3月)
(数値)	(内容) 機器のデモンストレーション、環境整備方針の検討・質疑応答
	※ 町議会9月定例会における補正予算審議において、ICT環境整備に係る 補正予算案を提出。
	間上「発木で促山。

事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化が	あり、事業を行う必要か	(あるか。)		
業の	■ 十分	}必要である		□ おおむね必要であ	る	□ あまり必要でない	
評	有効性	(施策や運営)	方針等目	的の実現に寄与してい	的の実現に寄与しているか。)		
価	口十分	}寄与する		■ おおむね寄与する)	□ あまり寄与していない	
自	経済·效	加率性(事務效	ӣ率化、⊐	1スト縮減しているか。)			
己	口十分	うできている		□ おおむねできてい	る	■ できていない	
評価	目標達	成度(計画通	りに目標	E達成できたか。)			
$\overline{}$	□ 達成できている			□ おおむね達成でき	ている	■ 達成できてない	
自己	評価	С	成果が一	十分に上がっておらず、	改善の余地	が多い	
評価説考察、		のの、それ! く、先生方: このよう:	以上に、 が活用し な状況で	平成28年度に導入した たくてもしにくい環境 研修を行ったとしても	こ教育ICTシン 気であること ら活用は進ま	キル向上も必要ではあるも ステムに課題が非常に多 がわかった。 :ないため、まずはしっかり な環境整備を行うことが重	
今後		口 さらに重	点化する	■ 見直しのうえん	継続する	□ 事業の縮小を検討する	
方向	付性	□ 休止、廃	止を検討	付する □ 事業完了			

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	C	В	C	С	C	В	С

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

現場の声を吸い上げて、研修等に反映させてほしい。 実際に授業で使う教員が感じている不便さ等を解消してほしい。 野小では、PC室が職員室にある棟にあり、そこではネットにつながる が、教室棟ではつながりにくいので、そういう部分も改善してほしい。 六ヶ所村では、ICT支援員が村内の学校を回り、授業に入ってサポート している。

指導員というよりは、授業に入ってサポートをしてくれるような補助員 を、曜日毎に各学校に配置してもらえれば、教職員がより使いやすい状況に なると思う。

- ・タブレットPCにインストールされる「ロイロノート」の活用がカギとなる。 、先生方への研修(リーダー研修→学校で周知)を企画してほしい。
- ・忙しい仕事の中、先生方の研修、本当に大変だと思います。
- ・昨年に比べれば、先が少し明るくなった。

施策名	研修の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教職員ふるさと研修	担当者名	木村 卓磨

事業の目的 ・内容	新たに当町に着任した教職員等を対象に、当町の歴史や文化、特産品などを 紹介することで、当町に興味を持ってもらい、当町の特性をよく理解してもら うことで、社会科の地域学習をはじめとした指導力の向上を図る。					
事業の対象	・野辺均	等として新たに任用された 也町に初めて着任した教 以上野辺地町を離れていた	職員			
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算		
	金 額	2 千円	2 千円	2 千円		

事業の実績 ・成果等 (数値) ・成果等 (数値) ○ 視察場所 歴史民俗資料館、行在所、常夜燈公園、みちのく丸、漁業協同組合、JAゆう き青森、まかど温泉スキー場(ハッチョウトンボ観察)、行在所(昼食: とりめし弁当) ○ 講師:歴史を探る会 会長 鈴木幹人、教育委員 野坂幸子 ○ 研修参加者:教職員11人、役場職員12人

事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化があり、事	事業を行う必要があるか。)			
業の	口十分	}必要である	■ お	おむね必要である	□ あまり必要でない		
評	有効性	(施策や運営	方針等目的の実	的の実現に寄与しているか。)			
価	■十分	寄与する	□ぉ	おむね寄与する	□ あまり寄与していない		
自	経済·欬	加率性(事務交	カ率化、コスト縮	スト縮減しているか。)			
己評	口十分	かできている	■お	おむねできている	□ できていない		
価	目標達	成度(計画通	りに目標を達成	を達成できたか。)			
)	□ 達成	えできている	■ お	おむね達成できている	□ 達成できてない		
自己	自己評価 B 優			いくつかあり、成果が上が	うている		
評価説明及び 考察、課題		館にある文化 ポットとしての こかぶやホ いた。 今後も	と財と関連づける)役割もある、み タテなど野辺地に こういった部分に	ことができ、深い学びに結け ちのく丸について参加者は 町の特産品を初めて食べた は継続していきたい。	内容に加えた。歴史民俗資料 びつけることができた。観光ス 興味を持ってくれた。 参加者もいて、とても感動して の見直しなど改善していきた		
今後	-	口 さらに重	点化する ■	Ⅰ 見直しのうえ継続する	□ 事業の縮小を検討する		
方向	句性	□ 休止、廃	止を検討する	□ 事業完了			

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	В	В	В	Α	Α	В

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

大変楽しい内容となっている。

松浦食堂の郷土料理は、今では大変貴重なので、ぜひ継続してほしい。 松浦食堂さんはお年を召しておられるので、将来を見込んで、逆に若い町民 の方に郷土料理を覚えてもらって、松浦食堂以外にも作ってもらえるような人 たちが増えればいいなと思う。

- ・今年参加して、野辺地町についての理解を深めることができた。
- ・とても良い取り組みですが、町の文化をどのように残していくのかは課題だ と思います。無形文化は人がつなげるものですので。
- ・初めて野辺地町にいらした先生方やもうすでに町にいる方々にとって、良い体験と出会いの時になっていると思います。この研修を通して、心に残ったことが一つでもあり、少しでも「心のふるさと」になってほしいと願っています。
- ・地元の良さを知ってもらうというのは、頑張る意識につながるはずなので、とても良いと思う。

施策名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育連携パートナーシップ協定事業(新規)	担当者名	木村 卓磨

事業の目的 ・内容	豊かな。 シップ 成30 ^年 また、	教育活動をより一層推改 協定を県立野辺地高等学 F7月に締結した。 連携事項を円滑に推進		、教育連携パートナー 国高等学校それぞれと平 数育連携推進会議」を設		
事業の対象	教職員	教職員及び児童生徒。				
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算		
尹 秦 其	金 額	一 千円	0 千円	0 千円		

● 教育連携パートナーシップ協定締結 平成30年7月11日 (中央公民館) 事業の実績・成果等 (数値) 「大学生対象の寺子屋事業、中学生対象の体育実技演習 (野辺地高校)・のへじ祇園まつりでの山車の制作及び運行 (野辺地西高校)・高校生に対する人材育成事業 (学力向上支援、競技スポーツ強化支援)・在学青年ボランティア会、「地域のお宝物語」高校生育成事業 (地教委)など

事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化が	あり、事業な	を行う必要がある	るか。)		
業 の	■十分	}必要である		□ おおむ	ね必要である		□ あまり必要でない	
評	有効性	生(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)						
価	口十分	}寄与する		■ おおむ	ね寄与する		□ あまり寄与していない	
自	経済·贫	加率性(事務效	∮率化、□	スト縮減し	ているか。)			
自己評	口十分	うできている		■ おおむ	ねできている		□ できていない	
価	目標達	成度(計画通	りに目標	を達成でき				
)	□ 達成できている			■ おおむ	ね達成できてい	る	□ 達成できてない	
自己	評価	В	優れた耶	双組みがいく	(つかあり、成果	が上がっ	っている	
評価説明及び 考察、課題		携してきたが、 にすることがっ	教育連携 ごきた。 選推進会議	パートナーシ の中で、現在	ンップ協定を締結す E実施している連携	することで	予辺地西高校とは必要に応じて連 で、連携の目的や内容をより明確 乱直しながら、必要に応じて新た	
事業	-	口 さらに重	点化する	■見	直しのうえ継続	する	□ 事業の縮小を検討する	
方向	寸性	□ 休止、廃	止を検討	けする □]事業完了			

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	A	В	В	В	В	1

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

平成30年度新規事業のため、前年度評価なし。

- ・当初、何のためにやっているか分からない事業であったが、寺子屋事業での児童の感想を読み、小・中・高の連携・交流の必要性を強く感じた。
- ・小学生対象の寺子屋はとても良いと思います。スポーツ寺子屋があっても良 い。
- ・さっきまで全く他人だった人たちが、一つの事業で集い、語らい共に時間を 過ごす中で、お互いを知り、少しずつ友達になっていき、コミュニケーション が上手にとれるようになってほしいと望みます。
- もっともっと若い力をいろんな場面で発揮してもらうよう頑張る機会をもっと与えてほしい。

施策名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学校施設営繕・設備保全	担当者名	杉山 拓

事業の目的 ・内容		教育施設の維持管理及び修繕工事を実施し、安全・安心な学校づくりを目指 している。						
事業の対象	各小学校	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
事業費	年 度 平成 29 年度決算 平成 30 年度決算 平成 31 年度							
尹 未	金 額	123, 461 千円	23, 292 千円	31,706 千円				

	1. 実施工事	
	①馬門小学校防犯対策工事	415,800円
	②若葉小学校指導室床改修工事	734, 400円
	③馬門小学校電気錠設置工事	345,600円
	④馬門小学校高圧気中開閉器更新工事	820,800円
	⑤若葉小学校普通教室床改修工事	648,000円
事業の実績	⑥馬門小学校遊具改修工事	520, 560円
· 成果等	⑦野辺地小学校階段手摺取付工事	595,080円
(数値)	⑧町内小学校消防設備整備工事	196, 344円
(32.12)	⑨野辺地小学校A棟2階東側女子トイレ改修工事	313, 200円
	⑩野辺地小学校玄関手摺設置工事	336, 420円
	⑪町内小学校防火設備整備工事	221, 400円
	②野辺地小学校梁型仕上材落下防止工事	18, 144, 000円
	※H29年度決算は、講堂耐震化工事費含む。	
	※H30年度決算は、野辺地小梁型仕上材落下防止	工事含む。

事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化が	あり、事	業を行う必要があるた	_ۇ ر _ە)		
業の	口十分	分必要である		■ お	おむね必要である		□ あまり必要でない	
評	有効性	効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)						
価	口十分	寄与する		■ お	おむね寄与する		□ あまり寄与していない	
(自己	経済·郊	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)						
己評	口十分	分できている		■ お	おむねできている		□ できていない	
価	目標達	票達成度(計画通りに目標を達成できたか。)						
)	□ 達成できている			■ お	おむね達成できている)	□ 達成できてない	
自己	評価	B 優れたI		双組みか	いくつかあり、成果が	上がっ	っている	
		限られた予算の中で児童の安全を最優先に改修等を実施している。						
評価説	明及び	明及び 改修にも限度があ			小学校施設における	老朽化	2への対応策が課題とな	
考察、	課題	っている。						
	後の	口 さらに重	点化する		見直しのうえ継続す	る	□ 事業の縮小を検討する	
方向	句性	□ 休止、廃	止を検討	けする	□ 事業完了			

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	В	В	В	В	В	В

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

トイレの洋式化を進めてほしい。

トイレの臭いを何とかしてほしい。保護者からも要望が出ている。いくら芳香剤を置いてもなかなか解消できない。換気扇をつけてほしい。

トイレ関係の改修については、お金が掛かることなのでなかなか難しいとは思うが、 少しずつでも対応してほしい。

- ・トイレの洋式化は遅れている。安心・安全が優先なのは分かるが、トイレ個 室の水まわりの不具合で使用不可になっている個室は、一刻も早く、使用でき るようにしなければならない。
- ・予算の決められている中で、安心・安全を第一にして行われていることに、 心からお礼申し上げます。
- ・安全確保をこれからも最優先で行ってほしい。

施策名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教材備品の整備	担当者名	吹越 麻衣子

1						
事業の目的 ・内容	教育記能力向」	毎年度実施 教育課程にもとづき授業を実施するうえで、児童・生徒の心身の向上や 能力向上のための備品を購入するもの。また、既存備品が古くなったり、 故障や破損して使えなくなったりする場合の修繕等をおこなうもの。				
事業の対象	教員及び	教員及び児童・生徒				
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算		
尹未貝	金 額	4,098 千円	3,323 千円	3,959 千円		

事業の実績 ・成果等 (数値) 野辺地小学校858, 336円 (一般787, 056円、教材71, 280円) 若葉小学校1, 064, 481円 (一般938, 629円、教材96, 552円、特支用29, 300円) 馬門小学校441, 228円 (一般260, 032円、教材168, 696円、特支12, 500円) 野辺地中学校497, 341円 (一般398, 521円、教材98, 820円) 楽器461, 706円

毎年11月末の来年度当初予算編成へ向け、各小中学校が必要な備品を取りま とめ教育委員会へ提出。教育委員会は学校が要望した備品について担当者から関 き取り、必要性を検討、精査してから町部局へ予算要望している。

事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化が	あり、事業を行う必要があ	るか。)			
業の	■ +5	ト分必要である		□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	`		
評	有効性	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)						
価	■ +5	予寄与する		□ おおむね寄与する	□ あまり寄与してい	ない		
自	経済·欬	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)						
己	□ 十分できている		■ おおむねできている	□ できていない				
評価	目標達	成度(計画通	りに目標	を達成できたか。)				
Ü	□ 達成できている			■ おおむね達成できてし	ハる □ 達成できてない			
自己評価		В	優れた耳	収組みがいくつかあり、成果	見が上がっている			
		各校とも	学校整備	に要する備品や授業等に	要する備品の劣化や損壊があ	らり、		
評価説	明及び	備品費の増額が余儀なくされている。						
考察、	、課題			町学校備品管理規程を定 要に応じて実施していく	めたことから、H31年度にお 。	おいては		
	後の	口 さらに重	点化する	■ 見直しのうえ継続	計する □ 事業の縮小を検	討する		
方向	句性	□ 休止、廃	止を検討	付する □ 事業完了				

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	B	В	В	В	В	В	В

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

昨年と同様で、備品のリストを作り、各校で共有して使える仕組みをつくれば良いと思う。(平成30年度において整備中。) 祭り日の楽器についても、劣化が激しいものもあるので対応してほしい。

施策名	その他	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育広報の発行(新規)	担当者名	小又美穂、杉山拓

- W 11	平成2	3年度から、教育施策及	び行事等を紹介するため、	、教育広報「のへじ		
事業の目的 ・内容	の教育」	の教育」を発行。平成30年度からは、きめ細かいタイムリーな情報を提供す				
,,,,						
事業の対象	町民一般(各家庭に毎戸配布)					
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算		
尹 未 貝	金額	70 千円	91 千円	70 千円		

	○4月発行内容
事業の実績 ・成果等 (数値)	 教育委員会主要事業の紹介、前年度の事業紹介、子どもの文化・スポーツ団体紹介 ○10月発行内容本年度の実施事業紹介、行事予定 ※小中学生の活動の他、高等学校の記事も掲載している。

事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化があり、事業を行う必要があるか。)					
業の	■ 十分	}必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない				
評	有効性	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)						
価	口十分	寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない				
自	経済·贫	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)						
己 評	■ 十分	うできている	□ おおむねできている	□ できていない				
一一一	目標達	標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)						
)	□ 達成	えできている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない				
自己	評価	В	優れた取組みがいくつかあり、成果が上か	うている				
		町広報では	は紹介しきれない、教育委員会の業務や	学校の活動について掲載する				
評価説	明及び	ことができ、教育委員会の透明性に努めている。						
考察、	課題	・紙面スペースの関係で紹介する事業に限りがあることから、年度によって、						
		紹介する	事業を変えている。					
今後	-	口 さらに重	点化する ■ 見直しのうえ継続する	□ 事業の縮小を検討する				
方向	句性	□ 休止、廃	止を検討する 口 事業完了					

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	В	В	В	В	Α	1

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

新規掲載のため、前年度評価なし。	

- ・紙媒体のため、紙面スペースが限られてしまうので、そろそろホームページ 化に踏み切ればどうか?各学校の学級だよりプラスアルファの情報発信が可能 になり、「教育のための社会」が広がっていく一助となる。
- ・教育の町「野辺地町」の教育に対する考えや、活動を知ることのできる教育 広報だと思います。
- ・町の取組みが分かりとても良い。知らなかったことを知ることができ、興味 が湧く。

施策名	その他	担当課名	学校給食調理場
事務事業名	給食費の未納対策強化	担当者名	浜野 裕子

	学校給金	<u></u> 食費の滞納額を減少させ	 ス	
			-	
車業の日的	・平成2	5年度以降を重点的に徴	以する。	
事業の目的 ・内容	・児童号	手当の充当により滞納額	減少に努める。	
,,,,	・要保証	糞世帯分は、学校長から	上北県民局に納付依頼し	年度末に全額徴収する。
	・準要保	保護世帯は、給食費免除	としている。	
古类の社会	小・中等	学校の給食費未納 89世	帯、滞納額 16,187,340	円
事業の対象	昭和63年	F度から平成25年度未納	世帯	
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
学 未 其	金 額	226 千円	140 千円	265 千円

事業の実績
・成果等
(数値)徴収対策:日中の徴収可能な世帯は時間内訪問 ※時間外手当 12,000円/月
・毎月電話催促、臨戸訪問による徴収、納付書の送付 ※7月催告書の送付
・年児童手当 2,239,030円を給食費に充当
・新規利用者に「給食利用申込書」の「児童手当から引落しを承諾する」を記載依頼
・給食費滞納世帯へ児童手当充当の申出書提出依頼
・H30 調定額 39,197,410円 - 収入額 39,041,590円 = 未納額 155,820円
徴収率 99.6 % (6月支給の児童手当で収納済み)

事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化が	あり、事業を行う必要があるか。)	
業の	■十分	}必要である		□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
評	有効性	(施策や運営:	方針等目	的の実現に寄与しているか。)	
価	口十分	∂寄与する		■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
自	経済·欬	加率性(事務效	動率化、□	コスト縮減しているか。)	
己	■十分	うできている		□ おおむねできている	□ できていない
評価	目標達	成度(計画通	りに目標	を達成できたか。)	
\smile	■ 達原	艾できている		□ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己	,評価	Α	優れた耳	Q組みが多く、十分成果が上がって	ะเงอ
		成果 H304	年度 滞	納徴収額 1,903,190円(H3~29分	(7))
評価説	明及び	うち	H25∼29	9分 219,930円、年度末滞納額	16, 187, 340円
考察、	、課題	課題 不能	欠損処	分ができるよう今後対策を考える	5.
		保護	着の死	亡や住所不明者の徴収不能滞納額	質が多い。
今後	 後の	■ さらに重	点化する	□ 見直しのうえ継続する	□ 事業の縮小を検討する
方向	向性	□ 休止、廃	止を検討	付する □ 事業完了	

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	Α	Α	В	Α	Α	A	Α

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

計画安良思元(多名: 十成25千度の計画思元 <i>)</i>	
電話催促、臨戸訪問は大変だと思う。御苦労あると思うが今後もお願いしたい。 学校としても非常に感謝している。他町村では学校の教職員が徴収しているところ もあり、教職員の負担が軽減されている。 徴収するための工夫がすごい。 古いものに関してはどこかで区切りをつけてもいいと思う。	
日の一日の月に戻してはことが、ことものできたが、	

評価委員意見(平成30年度)

・未納に対して何も心が痛まない人がいてほしくないと思います。全く支払いが不可能な人たちの状況が分からないので、ケースバイケースで対応しているかと思い、ご苦労様です。

施策名	その他	担当課名	学校教育課
事務事業名	就学援助費事業	担当者名	橋本 幸子

	経済的な	は理由で町立小・中学校へ	への就学が困難な家庭及	び特別支援教室等
事業の目的	で就学し	ている児童生徒世帯への	の就学援助事業。	
•内容	一人親士	世帯、非課税世帯その他は	タ町村に比べ認定要件が	多い。
	(給食費、	新入学費、学用品費、修	学旅行費、校外活動費、体	育実技費を補助)
事業の対象	野辺地町	丁内小・中学校 及び町戸	内から他町村学校に通う	児童生徒
争未の対象	(一人親	世帯、非課税世帯その他	L町村に比べ認定要件が多	5V1)
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
一	金 額	7,300 千円	6,800 千円	6,907 千円

	要・準要保護就学援助費	※準要	保護は、全額町	負担 国県	補助なし
	(小学校準要) 2,888,734円	84名	平均1人当たり	23,059円	給食費免
事業の実績	(中学校準要) 3,295,726円	60名	平均1人当たり	104,611円	給食費免
•成果等	(中学校要保護)90,500円	1名 修学旅	行費のみ対象	※ 国庫	補助45,000円
(数値)	(小学校要保護) 0円	3名			
	特別支援就学奨励費 小学	学校12名 4	05,933円 中	学校210,34	1円
	※国庫補助 288,000円				

事	必要性	(町民ニーズ)	に変化がる	あり、事	業を行う必要があるか	١,)	
業 の	■ 十分	}必要である		□ おお	むね必要である		□ あまり必要でない
評	有効性	(施策や運営	方針等目	的の実現	見に寄与しているか。))	
価	■ 十分	寄与する		□ おお	むね寄与する		□ あまり寄与していない
自己	経済·炃	加率性(事務效	カ率化、コ	スト縮減	しているか。)		
己評	■ 十分	かできている		□ おお	むねできている		□ できていない
価	目標達	成度(計画通	りに目標で	を達成で	きたか。)		
\sim	□ 達成	杖できている		■ おお	むね達成できている		□ 達成できてない
自己	評価	В	優れた取	組みが	いくつかあり、成果が.	上がっ	っている
評価説考察、		も認定条件だる。	があるの と児童扶	で、学校 養手当 <i>0</i>	交、教育委員会へ相認 ○申請が必要であるな	淡でき	護者もいる。一人親以外できる体制づくりが必要であ 党の体制が、児童扶養手当
今後 方向			点化する 企を検討		見直しのうえ継続する □ 事業完了	3	□ 事業の縮小を検討する

事務評価委員の評価

)	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	В	B	В	В	В	В

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

前年度と同じで、実状にあった継続をお願いしたい。	

・説明の周知徹底を図れば更に良い。	
元列の河外版成と四州の改文に及い。	

施策名	学校支援活動	担当課名	学校教育課
事務事業名	学校支援推進事業	担当者名	吹越 麻衣子

事業の目的 ・内容				を育む、地域ととも 動の充実と一層の活	
事業の対象	各学校				
事業費	年 度	平成 29 年度	決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
一 未	金 額	72	千円	64 千円	68 千円

事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化が	あり、事業	を行う必要が	があるか。)	
業 の	■十分	}必要である		□ おおす	じね必要であ	5 3	□ あまり必要でない
評	有効性	(施策や運営	方針等目	的の実現	に寄与してし	い るか。)	
価	■ 十分	■ 十分寄与する			むね寄与する	; 5	□ あまり寄与していない
自自	経済·贫	加率性(事務效	物率化、□	スト縮減し	ているか。)		
己評	口十分	かできている		■ おおす	じねできてい	る	□ できていない
価	目標達	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)					
)	□ 達成	達成できている ■ おおむね達成できている □				□ 達成できてない	
自己	 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている				っている		
評価説考察、	明及び . 課題	入している。 特に見守	り 隙 につ の連絡会	いてはな を組織す	り手不足が るための要	架刻化して:	よりボランティア保険に加 おり、H30年度はH31年度 った。今後、連絡会におい
今後 方向	-		点化する 止を検討	-	見直しのうえ; □ 事業完了		□ 事業の縮小を検討する

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	В	В	В	В	В	Α	В

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

ボランティアの方がいること自体は学校として非常にありがたい。 ボランティアの人数が減少してきており、人集めが大変である。

ボランティア登録している人は、ある程度いるが、実際に活動している人は 限られている。

ジャンバー等の備品が、自治会長が持っているなどして、眠っている状態のところもあるようなので、一度回収して、活動している人に回せるようにしてはどうか。

- ・学校支援ボランティアは、重要な課題。教師の働き方改革でも登下校の安全 を地域の力で見守る方向が打ち出されている。
- コミュニティスクールの方向とも一致している。
- ・見守り活動は、野辺地小学校では活発な活動が見られますが、若葉小学校は 少ないような気がします。ボランティア活動は本当に必要だと思います。
- ・町の予算がついて素直にうれしい。気持ちで成り立っている事業であると思うので、町の気持ちに感謝です。

施策名	学校保健の取組み	担当課名	学校教育課
事務事業名	児童・生徒各種健診及び教職員特定健診	担当者名	小又 美穂

事業の目的 ・内容		学校保健安全法第13条に基づき実施し、児童・生徒・教職員の健診等により適正な健康管理を行い、健康で充実した学校生活を送るため実施する。					
事業の対象	児童、生徒、教職員及び次年度就学予定の幼児						
事業費	年 度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算			
す 未 貝	金 額	3,673 千円	3,542 千円	3,777 千円			

P童・生徒の健診について、内科、歯科、耳鼻科、眼科、尿検査を学校医等により全学年を対象に実施。心電図検査は小学1・3・5年生、中学1・3年生を対象に実施。貧血検査は、保護者からの同意を得られた小学5・6年生・中学2・3年生を対象に実施。色覚検査と運動器検査の実施も含め、すべて6月末までに終了した。 教職員健診は、1日ドック・1日健診者以外の教職員を対象に健診を7月に一斉に実施した。 就学時検診は、来年度小学校に入学する幼児(90名)を対象に11月7日に実施した。

事	必要性	(町民ニーズ)	こ変化があ	り、事業を行う必要があ	るか。)		
業の	■十分	}必要である		口 おおむね必要である		□ あまり必要でない	
評	有効性	(施策や運営	方針等目的	の実現に寄与しているだ	<u>か。</u>)		
価	■ 十分	寄与する		」おおむね寄与する		□ あまり寄与していない	
自自	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)						
己評	■ 十分できている] おおむねできている		□ できていない	
価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)						
)	■ 達成	えできている		」おおむね達成できてい	る	□ 達成できてない	
自己	日評価 優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている					っている	
		来年度以	降、より効	率的な学校検診のため	、オージ	ジオメータ (聴力検査機器)	
評価説	明及び	の追加購入	が必要と考	えられる。			
考察、	課題	また、教師	職員のスト	レスチェックについて	は50人ラ	未満の事業所では努力義務で	
	あるものの、健全な職場環境を作るために予算措置が必要である。						
今後		■ さらに重	点化する	□ 見直しのうえ継続	する	□ 事業の縮小を検討する	
方向	向性	□ 休止、廃	止を検討す	-る □ 事業完了			

事務評価委員の評価

		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
総合評価	Α	А	A	В	Α	В	В

評価委員意見(参考:平成29年度の評価意見)

特になし。		

- ・これほどの予算がかかっていることを初めて知った。本当に助かっている。
- ・教職員のストレスチェックは毎年行っていただきたい。
- ・短命県返上のためにも力を入れて頑張ってほしい。